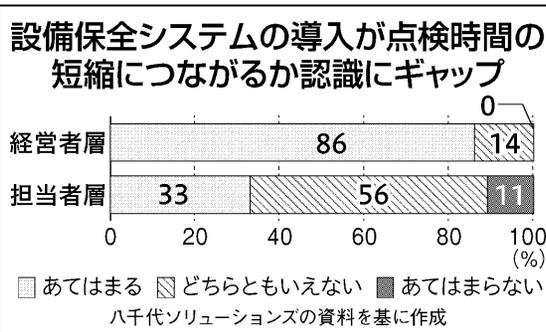


設備保全システムを導入しても、点検時間の短縮の実感は経営層と現場では50%もの開きがある。八千代ソリューションズ（東京都台東区、水野高志社長）のまとめた調査で、システムの導入は経営層が期待するほど現場の担当者は効果を得られていない実態が明らかになった。水野社長は現場の需要に適した機能や支援体制のシステムが重要であり、「経営層と現場の双方が納得できるシステムの導入が必要」とコメントしている。

設備保全システム導入

八千代ソリューションズ 短縮することができ
 ingsが全国の製造、建 一かを経営層と現場
 設、鉄鋼業の設備保全 の担当者層の双方に聞
 担当者500人を対象 いた設問では、経営者
 に5月に実施した調査 層の86%が短縮できる
 で明らかになった。 と回答した。これに対
 メンで利用中のシ し担当者層は33%にと
 ステムについて「現場 どまっており、50%以
 での点検記録の時間を 上の開きがあった。

時短効果実感、現場33% 経営層86%と認識差大きく



データ集約負担が増加

この認識差について、結果として負担の増大につながっている。同社は「販売されてい 軽減につながっていない」と指摘している。本質的なデジタル変革 (DX) ではなく、単 また、担当する保全業務において課題と感 業務の管理方法を変更 する際の課題を聞いた とが「できる」などと回 答していた。

「新しい技術に対する ニヤリング（東京都台 東区）が7月に設立し た子会社で、製造業向 けのDXサービスなど を手がける。

なるデジタル データ化のツールの延長に過ぎない点に課題がある」とした上で、「経営層は集約された情報で便益を感じてきた。これら一方、現場の項目は、コストの削減や人手不足に関する項目よりも多くの人が「蓄積にさら 課題と認識していた。一方、勤務先の保全業務の管理方法を変更する際の課題を聞いたとが「できる」などと回答していた。

「点検などのスケジューリング管理がしやすくなる」「バラバラの記録を1カ所にまとめることができる」などと回答した。このほか、保全業務管理システムを利用している人（248人）を対象に、メインで利用中のシステムの特徴を尋ねたところ（複数回答）、「紙資料に書き写すことなく、保全記録をまとめられる」「管理が煩雑」などが挙げられた。このほか、保全業務管理システムを利用している人（248人）を対象に、メインで利用中のシステムの特徴を尋ねたところ（複数回答）、「紙資料に書き写すことなく、保全記録をまとめられる」「管理が煩雑」などが挙げられた。